

2013年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会
《 審判員の育成 ～公認B級審判員～ 》配布用

◆シャドーイング 公式ルール&審判テキストブック P107～114 参照

◆試合実技

1. 公認B級審判員認定において、**単独動作** (各審判員) および **連続複合動作** (主審として) ができなければいけない課題とされているが、なぜ必要なのか？

テキストブック P107～114 参照

ゲームの流れをイメージ
できることが重要

ゲームの流れがイメージできること
によって余裕をもって対応できること
につながる

2. 試合実技試験では、どのようなことが、できなければいけないのか？

全プレイヤーへ。オフィシャルへ。
「判定」「報告」が聞こえるように！
◎声が出せる努力をする！

音色の使い分け重要
「ピッ」「ピーッ」「ピッピーッ」

「シャドーイング」の共通ポイント

十分な**声量**と、笛は十分な**音量**か、リズム、タイミングはどうか？

- ・手を伸ばすべき動作では指先まで意識して伸ばせているか。
- ・動作（手の形、高さ等）は統一基本通りか。
- ・単独動作では**余分な動作**をつけてないか。
- ・試合のイメージ、流れを意識できているか。
- ・課題を読み上げられてから、スムーズな行動に移せているか。

基本動作ができなくなるようでは
意味がない

○単独動作

「集合」

集合の形を作ってから、「ピーッ」という十分な音量にて長い笛を吹いた後で、「集合」と十分な声量で言えているか。声を出し終えるまで形は崩さない。

(指導の着眼点)

- ①形を作る
- ②長い笛
- ③十分な声量
- ④コールし終えるまで形を崩していないか

「○番アウト」

手の動作、掌を床面に対し垂直とし、当該プレイヤーを指す。

(指導の着眼点)

- ①動作と同時に笛を吹いた後、プレイヤーに対し「○番アウト」のコールが出来ているか
- ②コールし終えるまでに、動作を解除していないか
- ③五指が揃っているかどうか

補足：アウトコール時の腕の高さはプレイヤーの身長等にかかわらず
主審の肩の高さ(床面に対して垂直)

「ファール各種」

手の動作、片腕を天に垂直にあげた（掌は自分の体と同じ向き）と同時に「ピーッ」という十分な音量にて長い笛を吹き、試合を止めた後に各々のファール名動作を行う。動作のないファールについては、アウトと同様の動作で、当該プレイヤーを指し、ファール名をコールする。

(指導の着眼点)

- ①ファールを知らせる長い笛が吹けているか
- ②笛と動作が同じか
- ③其々のファール動作の中で

「形を作ってからコールするもの」と

「動作とコールが同時のもの」を区別しているかどうか

形を作ってから…

- オーバーライン
- ダブルタッチ 等

動作・コールが同時…

- ホールディング
- ダブルパス 等

「試合終了」

動作、両腕を天に垂直に伸ばし、左右の掌は内側に向ける。

笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークル中央まで行き、試合を終了させる。

その時ボールから目を離す人が多いので、絶対にボールから目を離さない意識を持つこと。

(指導の着眼点)

- ①動作・笛・コールに入るタイミングは同時にできているか
- ②センターサークルまで走れているか
- ③ボールを見る意識はできているか(あるか)

「人数報告」 …テキスト P68 参照

記録員に対し人数報告及び確認をしているか。(報告してすぐに手を下してないか)。

(指導の着眼点)

- ①十分な声量で確認し易い高さで人数提示ができていないか

「タイムの要求」【副審、線審】

副審：手の動作（主審と同様）と同時に笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークルまで行き、試合を止める。

（着眼点）

- ・「ピーッ」の長い笛の後、「タイム」とコールが出来ているか
（止まってからのコールでなく、走りながらのコールとなる場合もある）

副審： ボールの位置を把握しながらコート内に入っているか
センターサークルまで全力疾走できているか
止まってから動作を解除できているか

線審：動作（旗を扇状に振りながら）と同時に笛を吹き鳴らし、走ってセンターサークル中央まで行き、試合を止める。

（着眼点）

- ・「ピーッ」の長い笛の後、「タイム」とコールが出来ているか
（止まってからのコールでなく、走りながらのコールとなる場合もある）

線審の「ワンタッチ」、「ノータッチA」、「ノータッチB」

ワンタッチ：旗を頭上に上げ、旗の先端部に反対側の掌を当てる。

（着眼点）

- ・旗を上げる時は斜めではなく頭上、真上に上がっているか
- ・旗で視界を遮っていないか
- ・通常の線審の立ち位置で主審のいる方向に体を向けているか

ノータッチA、ノータッチB：旗を天に垂直に上げる。

（着眼点）

- ・旗を上げる時は斜めではなく頭上、真上に上がっているか
- ・通常の線審の立ち位置で主審のいる方向に体を向けているか

線審の「オーバーライン」「ホールディング」「アウトプレイ」

ファールの動作をしてから、個々のファール名動作とコールをすること。

（着眼点）

- ・主審が支配権の指示をしたと判断してから動作を解除する意識を持つこと
- ・通常の線審の立ち位置にて行う場合は、主審の方向に体を向ける
（主審が気づけていない場合には「タイム要求」をしなければならない場合があるため）

線審の「アドバンテージ動作」

ファールを確認したと同時に旗をプレイヤーに向て指す。

（着眼点）

- ・プレイを確認するのに適した高低差をつけているか
- ・視線は次のプレイを見る意識を持っているか

○連続複合動作(主審)

「ジャンプボールコールからトスアップまで。」

(観点)

一つ一つの動作が確実にできているか

「ジャンプボールの動作」「線審・副審・オフィシャルとアイコンタクトできているか」

(着眼点)

センターサークル中央でジャンプボールが出来ているか(コール含む)

ジャンプボールのコール、動作は**単独動作**として正しいか

ボールを受け取った意識、ボールを持っている意識はあるか

ジャンパーがセンターサークルに入ったことを目視で確認したか(ジャンパーを真ん中に寄せる動作は不要)

線審への確認はしっかりと各線審の方向に顔・体を向けているか(ゆっくり、間隔を大事に)

副審とジャンパーの選手番号についてアイコンタクトで確認したか

ジャンパーがセンターラインを踏んでいないことを確認したか

ジャンパー以外の選手がセンターサークル内に入っていないことを確認したか

視線はボールを追っているか

「ジャンプボールのやり直しからトスアップまで。」

「ピーッ」タイム時にタイムの動作が出来ているかを確認。

「ジャンプボールをやり直します」と言ったあと、タイマーの確認、副審とのアイコンタクトを意識できているか。

(観点)

タイムの動作は単独動作として正しいか

タイムのタイミングは適正か (ボールの方向が不適当な場合は、ボールアップ後すぐタイムとなる)

(着眼点)

副審からボールを受け取ったことを想定しているか

副審とジャンパーの選手番号についてアイコンタクトで確認したか

※これ以降は前項の矢印部と同様

「○コートチームのオーバーライン～支配権の指示～タイムインまで。」

ファール動作及びそれぞれのファール名動作が一つ一つ確実に行えているか。

(観点)

どこで「オーバーライン」があったのか

どのプレイヤーが「オーバーライン」をしたのか分かるように意識して動作する

(着眼点)

ファール名、動作は正しいか

「オーバーライン」 必要に応じてアドバンテージが取れているか

「オーバーライン」 コールの際、体はコートに正対しているか

支配権の指示の時は、掌の向き、腕の上げ方に注意、確実に動作を行っているか。

(着眼点)

支配権の指示動作は単独動作として正しいか

確実に支配権のあるエリアを指したか

タイムインの際、ボールアップの状態、守備側の状態を確認したか

タイムインの動作は単独動作として正しいか

常にボールの位置を把握し、ボールから目を離さない意識があるか。

(着眼点)

主審定位置についたとき、常にボールを目線にとらえているか

(センターライン延長線上)

また、タイムイン時はボールを持ったプレイヤーがボールアップしていることを必ず確認し、

守備側の準備ができているかを確認し、タイムインの動作を行っているか

「〇番アウト」～アウト・オブ・バーンズ～支配権の指示～タイムインまで
それぞれの動作を一つ一つ確実にできているか？

プレイヤーに対して極力正対し、背筋を伸ばし、コールする。

(観点)

「アウト」はプレイヤーを指す動作だが「アウト・オブ・バーンズ」はサイドラインに平行常にボールを意識しボールから目を離さない意識をしているか

(着眼点)

アウトコールの動作は単独として正しいか(複合動作なので、高低差をつけているかも大事)

副審・線審のアウト・オブ・バーンズを確認できたか

アウト・オブ・バーンズの動作は単独動作として正しいか

支配権の指示動作は正しいか、しっかりと支配権の指示を示しているか(立ち位置による指示方向は適正か)また、正しいコートの方向を示したか

タイムインの際ボールアップしたプレイヤー及び守備側の状態を確実に確認したか

線審の確認は、4線審に対し確実に行う。

「〇内野からのアタックが相手選手へのヘッドアタック」となった時の
処理(オフィシャルタイムアウト～タイムインまで)

オフィシャルタイムアウトの動作後、プレイヤーをその場に座らせる。

ヘッドアタックを受けたプレイヤーへの安全確認後、監督を招集。

(観点)

監督の安全確認が終了したら、他のプレイヤーに指示を出さないように注意し、監督がベンチに戻るまで目を離さない

(着眼点)

選手を座らせる時に、プレイヤーがセンターサークル付近にいる場合には離れて座るように指示

センターラインから離れている場合には、その場に座らせるよう指示

オフィシャルタイムアウトの報告後、支配権の指示、定位置に戻り
タイムイン。

(観点)

一つ一つの動作を確実に行うこと

プレイヤーの安全確認が最優先だが、まずしっかりと試合を止め、プレイヤーを確実に座らせること

(着眼点)

・タイムの動作は単独動作として正しいか(視線を遮らない)

・プレイヤーを確実に座らせたか「十分な声量とタイミング」

・選手の安全を自分で確認してから監督を呼んだか(手を挙げて「監督(さん)」)

☆お願いいたしますの文言は不要

・監督がコートから出ていくのを確認したか(監督と一緒に礼はしなくてよい)

・副審と確認したか

・報告時の立ち位置に注意する(センターサークルより後方で行う、選手の位置に注意する)

・報告内容は正しいか、「〇(チーム名または色)、〇番ヘッドアタック、□(相手チーム名)内野ボール」等
(「〇(チーム名または色)、ヘッドアタック、□(相手チーム名)内野ボール」救済処置)

・ヘッドアタックの動作は単独動作として正しいか

・支配権の指示動作は単独動作として正しいか、正しい方向を指しているか

・タイムインの際ボールを持ったプレイヤーがボールアップしていることを必ず確認し、守備側の準備ができているかを確認し、タイムインの動作を行っているか

2013 年度 一般財団法人・日本ドッジボール協会 中央研修会
《 実技統一事項 》

ファール発生に伴い、アシストキャッチ不成立となり、「アウト」を確定させる場合の手順。

ファールが確定した時点で、アウトが確実となる。

(手順)

- ① 「ピーッ」長いホイッスル
- ② 「ファール名」コール
- ③ 「アシスト不成立、○番アウト」

※考えられるファール …テキスト P 7 8

- タッチ・ザ・ボディ
- インターフェアア
- アウトプレー
- オーバーライン(キャッチ)
- イリーガル・スロー
- イリーガル・キャッチ

※アシスト不成立の事象が発生した場合、ファール確定後に「アウトコール」されているのかということが重要